

の面積亦廣大なるが故に、十分發展すべき見込あるに拘らず、其の産額甚だ過少な
るは何ぞや。蓋し農業當事者の少なきも其の一原因ならんが、畢竟彼等農民の使
用する器具は、舊式の不完全なるものに加へ、播種、耕耘、秋收の方法頗る迂遠なるに
因り、徒に多くの時間と勞力を消費し、割合に好果を得ざるに外ならざるなり。支
那は、元來百事保守主義に流れて、世界の進歩に伴はざるの弊あるが、殊に新疆の農
民は、最も其弊に陥りあり。

人類生活の進轉は、古來游牧時代より、漸く農業に入り、貿易に入り、工業に入るを
普通の順序とす。新疆人は今や游牧時代漸く去て、農工業時代に轉進せざるを得
ざるの時期に際す。看よ露領に瀕する外蒙古、滿洲に界する東部蒙古の游牧民は
露人、清人の指導に頼り、漸次土着農業に従事しつゝ、在るに非らずや。新疆人も宜
しく智識を世界に求めて、農藝の改良進歩を企圖せずんばあるべからず。而して
之が改良發達を謀るの第一著は、政府先づ進んで、斯業に經驗を有する巡回教師を
聘用し、各地に模範農園を開設し以て農具の改良を計り、以て收取の方法を指導し
以て播種、耕耘等總ての改良を圖らしめざるべからず。